

徳島市産業振興ビジョン策定委員会（第3回）
会 議 録

とき：平成26年1月10日（金）
13時30分～15時30分
ところ：徳島市役所 8階 庁議室

1 開会	
2 委員の交代、欠席者・代理出席者の報告	
3 議事 産業振興ビジョンの（素案）について	
委員長	それでは、早速議事に入る。議題の「徳島市産業振興ビジョン（素案）」について、事務局から説明をお願いします。
事務局	（「徳島市産業振興ビジョン（素案）」について説明）
委員長	ただ今、産業振興ビジョン（素案）について説明していただいた。どこからでも結構なので、ご質問やご意見があればお受けしたい。
A委員	素案2～3ページはこの通りであると思う。小子高齢化がますます進む。産業振興ビジョンの目標年次は平成36年度（2024年度）ということであるので、2ページのコメントでは本市の人口は平成22年に26万人、平成52年には21万人と書かれているが、ビジョンの目標年次とマッチングさせるのであれば、平成37年の24万人になるかと思う。 また、「65歳以上人口の割合が33%、3人に1人が高齢者である高齢化社会になる」など、そういったメリハリをつけられた方がよいのではないかと。
事務局	国立社会保障・人口問題研究所が推計した、国勢調査を基準とした日本の将来推計人口を使っており、市では独自に推計を行っていない。ビジョンに掲載する文章については再度検討させていただく。
委員長	19ページに徳島市の製造業の推移があり、非常にわかりやすいが、私としては製造業を3つに分け、素材型、加工組立型、生活関連型に区切ればどうかと思う。本県の特徴は、加工組立型が極端に少なく、素材型と生活関連型が多いため、規模も小さいことだが、問題点がもっと絞れるのではないかと。 資料はこれでよいが、製造業を3つに区切れば、加工組立型、例えばデバイスや自動車関係、精密機械などが非常に劣っていることが明確になるのではないかと。 もう1点。31ページに本市の強み、弱みが挙げられているが、本市の弱みは卸売業が少ないことである。 農業は全国1.2%のシェア、商業や製造業のシェアは0.5%であるが、卸売業は0.2%しかない。それは一番の問題である。 22ページでも、平成9年に9,853億円だったのが、10年間で6,961億円まで下がっている。全国では微減だが、徳島市は激減している。橋の架橋によって卸売業が壊滅状態になったという危機感が出てきていないように感じる。

	<p>この辺りも少しご検討いただければと思う。</p> <p>どうすればよいかは非常に難しいが、徳島県や徳島市にとっての一番の問題は、卸売業が駄目になったことであると理解している。</p>
B 委員	<p>戦略③-3「重点産業やイノベーションを支える人材の育成」は非常に大事な部分である。野球でもサッカーでも、企業誘致もそうだが、力をつけるために外から呼んでくるのもよいが、今ある人材や企業を育てて強くしていき、全国に通用するような企業に仕上げていくことが、本当は一番良いやりかたではないか。52ページの「3 人材力の向上」は、今ある人材をさらにレベルアップするという考え方で、ここは良い書きぶりである。</p> <p>もっと根本からいえば、小さい頃から職業観を含めて、知識以外にいろいろと、例えば歴史を知って郷土愛を持たせるとか、進取の気性のようなものを醸成するとか、職業意識を持ってもらうといったことが大事である。</p> <p>また、息の長いといおうか、早い時期からの教育、接する機会を持たせることが大事である。「働くことやものづくりの大切さを伝え勤労観を醸成する」と書かれているので、この辺りにぜひ力を入れていけば、やがてそのまま広がり、市の発展、あるいは産業の振興に力を貸してくれるだろう。</p> <p>「2 勤労観・職業観の醸成」の下から3行目に、教育機関と連携してそのような場を創出していくとある。その裏には、教育機関がさらに次の協力者を得てという意味が入っているのかもしれないが、教育機関と連携し、企業家等の協力を得ながら、例えば、実際に事業をしておられる方に、「ようこそ先輩」のように学校でいろいろな話をしてもらったり、先輩たちの職場や工場、ものづくりの現場を見たりすることも必要だと思う。おそらくそのようなことをしようとしているのだから、「企業の協力を得ながら」という書きぶりにしてもよいのではないか。</p>
C 委員	<p>3つの目標があり、15の戦略があることがわかりやすくなっている。多岐にわたって、非常に盛りだくさんで幅広くされていると思う。ただ、この15の戦略を本当に等しくやっていけるのか。優先順位をつけたい。そこから始めていき、少しずつ広げていくように、優先順位をつけていただき、選択、抽出し、まず切り込んでいくようにされてはいかがか。戦略を掲げられた後どうするのかと思った時に、実行にあたっての優先順位をどのようにするのが気になった。</p> <p>38ページに主な取り組みとして「海外販路開拓の支援」と書いておられるが、海外には新興国を中心に成長している市場があり、そちらに目を向けていくことは正に重要なことであるので、私どももぜひ連携していきたいと思っている。</p> <p>実際に盛り込んでいただいたからには、ぜひ具体的な話をし、連携していきたいということを申し上げておきたい。</p>
事務局	<p>ご意見をいただいたように、今回掲げさせていただいている事業について、ビジョンは全般的な事業展開を行うという方針でつくらせていただいている</p>

	<p>る。その関係で、ご指摘いただいたように、事業がかなり膨らむことが予想され、これから課題となるのは財源確保である。</p> <p>財源確保と併せて、事業の優先順位をつけ、庁内で十分練った上で、できるかぎり全てのものを実現できるように検討して参りたい。</p>
D 委員	<p>まず、前半部分のデータ整理のところ。説明にもあったように、例えば、有効求人倍率が1を超えたとか、あるいは全国的な外国人旅行者が1,000万人を超えるなど、データが大きく変わっている部分が数か所あると思う。現時点でデータを取れる範囲でこのようなデータを入れているが、更新して有意義な数値に変えられるのであれば、その時点でどんどん変えていけば、より良いデータになるのではないか。</p> <p>特に、徳島市の宿泊者数を月ごとに整理した資料などは非常に有意義である。初めて見させていただいたが、この点を改良していけば、徳島県の宿泊者数を増やすヒントにもなると思った。</p> <p>後半の戦略については、産業の垣根を越えて、農林水産業も含めた非常に大きな計画となっているのは非常に有意義である。</p> <p>33ページに集約されているが、「国・県の事業と一体化する」「国・県の事業に上乘せする」と書いていただいている。ここに書かれているような事業についても、県としては県下全域という視点でさせていただいているし、こちらにお見えの団体等とも協力・連携させていただきながらやっている。記述中には県や国という表現がたくさん出てくるが、これをもう少し掘り下げて1つずつ固有名詞を入れると、ビジョン自身がより具体的になり、一つ一つの事業の連携先も見えてくると思う。</p> <p>私どもにとっても、地元の市町村である徳島市がこのような視点でより参画していただくと、より相乗効果が出てくると思う。その点がもし可能であれば、私どもにご相談いただければ、書き加えることもできる。そのような肉づけをしていただければ非常にありがたい。</p>
委員長	<p>E 委員、国は訪日外国人の旅行者数をあと15、6年ぐらいで3倍ぐらい、3,000万人までと言っているが、こうした中において、徳島市が観光でそれにスライドしていけるような状況になるかどうか。</p> <p>現状を踏まえて、何かご意見をいただきたい。</p>
E 委員	<p>中国の問題などで一時大変落ち込んだが、急速に倍返しのようなことがあったようである。残念ながら、これは四国には波及していない。</p> <p>しかしながら、2020年の東京オリンピックを控え、そのような傾向が強まってくることは確かである。それも一つのチャンスであるので、そのためのインフラを整備することが肝要と考える。</p> <p>39～41ページ辺りに大変良く書いていただいております、これを実行することによって大きな成果があるだろうと、うれしく拝見している。</p> <p>ただ、ここではスポーツの面に触れられていない。スポーツの交流は一般的な観光交流と違い、確実性が高い。交流試合などいろいろあるが、小・中・</p>

	<p>高、あるいは一般、プロも併せて、スポーツ交流は大きな要素であるので、ここに書き加えていただければと思う。</p> <p>幸い、徳島ヴォルティスのJ1昇格という、画期的な出来事もある。それも捉えて、市にいろいろとご助力をいただく中で、永続性の持てるようなことができればと願っている。</p>
委員長	<p>おもてなしは心のホスピタリティだけでなく、県外から来る車の渋滞の時間の節約もおもてなしであるし、駐車場の設営もおもてなしであり、おいしいものもそうであるし、幅広くしなければ、1回来てもそれでこりごりだと言われれば困る。</p> <p>今年は非常に重要な年である。</p> <p>スポーツの交流は確実性が高いということは、逆にいえば危険な要素もある。県民や徳島市を挙げて満足してもらえるようにする。これもまた重要な問題であろうかと思う。</p>
F 委員	<p>E 委員から観光のお話があったが、私も日本旅行業協会ということで、観光の部分、特に 39～41 ページのポイント及び主な取り組みのところを拝見した。「観光情報の発信」という一番大事なことが入っている。</p> <p>これは当然ビジョンであるので、方向性としては網羅していただいているのでよいが、大事なことはこの次の段階である。例えば「観光情報の発信」では「観光情報の質と量の充実を図る」ということだが、たくさんある情報の中で、どの情報をどのように抽出していくのか。「地域資源を活用した観光の充実」ということでは、たくさんある地域資源の中でどの地域資源を重点的にやるのか。これからの戦略の部分 genuinely 大事だと思う。</p> <p>また、これも次の段階の話だが、全体的にこのビジョンを踏まえて、それぞれの数値目標をビジョンの最終年次にいくりにするのか。観光であれば、徳島市の年間宿泊者数やコンベンションの年間誘致件数の目標をいくりにするのか。目標の設定が大事になると感じた。</p>
委員長	G 委員、先程人材のお話があったが、教育の立場から何かあるか。
G 委員	<p>少ない子どもたちをいかに地域産業の担い手に育てていくかということが一番重要であると思う。その中でも、いろいろな事業をする場合は、プロデューサーやコーディネーターが中心になって、いろいろなものを結びつけたり、いろいろな人たちをまとめて一つの方向に向かわせたりすることが重要である。プロデューサーやコーディネーターが、地域のいろいろな方を巻き込んで、目標達成のために皆で汗をかきながらやっていく。そのようなリーダーの養成も重要であると思う。</p> <p>もう 1 点。以前も申し上げたように、中小・零細企業が 99.9%である。この素案のいろいろなところに書かれているが、例えば 48 ページの 2 行目、「中小・零細企業の多くは、技術力や人材、資金力等の経営資源が不足しているため、新たな製品やサービスの開発等に取り組もうとしても、自社の力だけでは十分な事業展開が困難な状況があります。このため、他企業（他産業）</p>

	<p>との連携により弱みを補完」し合う場を設けよということで、ポイントでは「ニーズ・シーズを出し合い情報交換を行う機会や仕組みを設けること」、主な取り組みでも「異業種交流」の場を提供するとなっている。</p> <p>これは場を設けて、来て下さいという受け身である。中小・零細企業は日々の仕事にかかりっきりで、このような場に出てくる余裕は全くない。しかし、中小・零細企業は 99.9%であるので、それをいかに底上げするかという視点も重要である。もっと踏み込んで、例えば事業創造コーディネーターという役職を 1 人でもよいので設置して、その方が市内のいろいろな中小・零細企業を回って概要を把握する。回っていると、この事業とこの事業をマッチングしたらどうかとか、こんな連携グループをつくれればどうかとか、いろいろな視野で見てあげられる。そのような方を集めて、いかがでしょうかと提案する。そのような役職をつくるのも一つの考え方ではないか。</p>
<p>H 委員</p>	<p>地場産業ということで、36 ページの「成長が期待できる産業への集中的な支援」に「家具・装備品製造業のように市場の伸びが欠けているものの伝統的に集積がある産業」については集中的な支援をしていくという文言が書かれている。</p> <p>徳島市だけではなく、全国的に地場産業は低迷しているが、地場産業が活性化するという事は、これは身をもって体験しているが、私どもの木工会館のショップで多くの方々が物を買って求められると、これは徳島でできたのだ、徳島は藩政時代から木工のまちなのだと、地場産業を通じて、単に経済的な面だけではなく、地域に対する思いやりや人づくり、地域づくりに大きく貢献する。これは金には換算できないが、ふるさと徳島を盛り上げていこうという、市民の地域づくりに大きくつながっているという文言を入れてほしいということが一つである。</p> <p>49 ページに「創業者の掘り起こし・育成」とあるが、私どもは徳島市からの指定管理事業で起業家支援をやってきた。最初は、ここに書かれているような創業セミナーや相談会をしたが、はっきり言って、これは絶対駄目である。セミナーだけを受けに来る、セミナーのマニアがいる。これは身をもって駄目だということがわかった。</p> <p>相談する場合は、「資金の確保をはじめ、財務、税務、労務、マーケティング等」とあるが、これは全然必要ない。私の意見は極端かもしれないが、私は木工会館で起業家支援のセミナーもしてきたし、実際に誘致もしてきたし、前回委員会でもお話ししたが、とくしま CITY に頼まれてショップも 5 か月ぐらいやった。その中で起業家がたくさんいた。銀行の OB などの資金や税金の話などを用意していたが、全然需要がない。</p> <p>やはり、物売ってあげなければならない。どうすれば物が売れるのか。一番効果的なのは販売の場をつくってあげることである。木工会館では販売の場を提供してあげて、現実に起業家が何人も育った。現場から得た教訓である。</p>

	<p>産業振興ビジョンをつくるのが目的ではない。私は「できてなんぼ」「売れてなんぼ」であると思う。木工会館という現場で事務をしていると、痛切に感じる。</p> <p>そういったことも十分踏まえた上で、具体的な計画を進めていくことをお願いしたい。</p>
I 委員	<p>今日が3回目ということだが、元を辿れば、計画期間は10年間で、5年で見直しをしていく。事前に資料をいただいて、1回目からの資料をずっと見てきたが、その中で感じたことがある。</p> <p>一つは、今の日本の経済産業界は、いわゆるアベノミクスが進んでいく中で、いろいろ変化しつつあるところだと思う。いろいろな指標一つを捉えても、過去の数値とは違った形に展開されている。データがあるものは年度ごとに出ているので仕方がないかと思うが、今急速にそういった数値が変わっていくというところで、文章の中では一部そのようなことが表現されているが、最終的には、過去はこうだったが、今の目の前のデータは違っているということで、新しいデータを反映していくべきである。タイミングとしては非常に難しい策定時期にあるのはやむを得ないかもしれないが、そのようなことを反映していただきたい。</p> <p>2点目。この戦略は非常に幅広く網羅されているということは他の委員からお話があった。逆にいえば、これを他県の地方都市に持っていっても同じような課題が出てくると思う。</p> <p>地場産業のお話もあったが、徳島市らしさをもう少し盛り込んでいただけないか。地場産業もそうであるし、例えば観光にしても「徳島市のポテンシャル」と書かれているが、歴史や文化など、もう少し具体的に表現されてもよいのではないかと思う。</p> <p>3点目。徳島市のビジョンということで、行政の役割は国・県・市という構成になっていると思う。行政としての取り組みという部分と、商工会議所等の支援機関の役割というものもある。産学官、金融機関も入るが、その役割分担。分担もし、連携もするという。「国・県等」という表現についてはご指摘もあったが、支援機関についてももっと盛り込んでいただきたい。</p> <p>人口減少は日本中どこでも同じで、特に大都市圏に集約されていくだろうと予想されているが、一番は若者の流出である。少子化で絶対数が少ないのは仕方がないが、優秀な若者が大都市圏に流出することを、特徴の中でいかに阻止していくか。そのためには、戦略の中の表現にもあったが、コアとなる新たな産業の創出も必要であるし、既存産業のブラッシュアップも必要である。</p> <p>加えて、行政としては子育て支援や社会福祉の充実など、住みやすいまちづくりはもちろんである。魅力ある雇用の場というものも、今の表現としては成長分野への取り組みということになるだろうかと思う。魅力あるまちづくりも一方で必要である。</p>

委員長	時間もだいぶ押し迫ってきたが、せつかくの機会であるので、感想でもキーワードでも何でも結構なので、ご発言いただきたい。
J 委員	<p>各委員からいろいろとお話を伺ったが、私も同感である。</p> <p>10 年間という長いビジョンなので、細かく絞り込むのは非常に難しいと思う。基本的には、戦略に書かれているように要旨、ポイント、主な取り組みとなっている。特に、主な取り組みについては、もっと具体性があってもよいと思うが、そのような期間で考えるとやむを得ないのではないかな。</p> <p>データについて、もし更新できるものがあればよい。例えば、日本の観光客は平成 25 年度には 1,120 万人と、ぐっと増えている。東京オリンピックということもあるので、そういった工夫も必要だろう。</p> <p>南海トラフ巨大地震対策には県も非常に力を入れているが、このデータを見ると、BCP の計画が策定されているのは 3% ぐらいと非常に低位である。必ず起きるだろうと予測されているので、ビジョンの中でも特に力を入れて推進する必要があると思う。</p>
K 委員	<p>私も H 委員と同じく現場の人間なので、「売れてなんぼ」という事業者の立場は非常に理解できる。</p> <p>43 ページの「空き店舗等に対する支援」、これはずっと言い続けているが、まだまだ対策ができてない。</p> <p>空き店舗や人口減少をどうするかではなく、時代は流れていくのだから、高齢者も非常に元気なので、プラス思考として何か事業ができないか。具体的にはまだわからないが、高齢化を生かすような商業施設を造るなど、プラス思考のまちづくりも必要である。今までのように、空き店舗をどうするか、商業人口が減って若者がいないといった視点で考えていても先に進めない。今の時代の流れとともに徳島市らしさを生かし、官民の取り組み方をもう少し変えていってはどうか。地場産業もあり、全国に向けていろいろと活用できるだろう。</p> <p>私たち AWA おんなあきんど塾は、官民共同で非常に珍しい団体だが、教育の方でもイベントをしたり、今後も前向きに取り組んでいきたいと改めて感じた。</p>
L 委員	<p>私ども卸売市場業界からみると、37～38 ページの「①-2 新たな域外市場の開拓」が非常に気になる。徳島の人口減少がこれだけ激しいということになると、生き残りを考えると戦略的に、外に向けて徳島の農水産物の販路を積極的に求めていく。45 ページの地産地消とは逆に、文言でいえば地産外消推進、地産都消でもよい。海外を含めて、都市部に売っていくことを積極的に推進していかなければ我々は生き残れないし、売上も伸びない。</p> <p>今は流通構造や消費構造が大きく変化している。つい最近の 12 月も、我々の業界の仲間が京都と尼崎で卸売会社をしていたが、残念ながら倒産した。もちろん、経営者の力不足もあっただろうが、都市部で人口の多い所でも大変厳しい状況が続いている。ましてや徳島市は地方都市である。せつかく素晴</p>

	らしい農産物がたくさんできているのだから、我々はそれを背中に負って人口の多い所へ販路を開拓していかなければ、なかなか生き残っていけないだろう。もちろん地産地消は基本だが、地産外消の推進も文言に加えて欲しい。
委員長	地域活性化は「人は内へ、ものは外へ」しかない。
M 氏	このビジョンの構成としては、それぞれの産業の現状分析、課題点、アンケート、戦略という組み立てではないかと思うが、私は農業なので、その関連が読み取れないのではないかと思った。 まず、農林水産業の課題として、16 ページには担い手不足が深刻であるとか、経営耕作地が減少しているとか、大きな問題点が掲げている。またアンケートにおいても、高齢化といったところにも視点があたっている。ただ、戦略においては 6 次産業化や地産地消といった、ありふれた内容のクローズアップがみられる。徳島市がこれからの農業をどのような方向に誘導しようとしているのかが不明確なのではないか。
N 委員	中心市街地の商店街は住んでいる人がいなければ成り立たないというのが現状である。人口がどんどん減少する中で、地元の若い者にいかに留まってもらっても大事だが、1 次産業の担い手として外国人の労働力を徳島に引っ張ってきて、その人たちに住んでもらうことによってお金が回っていくということも、地方都市として考えていかなければならない時期に来ているのではないか。物を売るにしても、日本人を相手にしていくと人口減少でじり貧になるので、海外に輸出しようとしている。海外の人たちに我々の地区に住んでもらって、物を買ってもらおうという循環にしていけばよいのではないか。今すぐは難しいが、中長期的には 1 次産業の担い手という切り口で、そのような人たちを考えていくべきではないか。
O 委員	徳島青年会議所はまちづくり、人づくりをする団体で、去年は私が担当してとくしま水都祭を開催した。徳島市には「心おどる水都・とくしま」というキャッチコピーがあるが、それをわかりやすく、皆で水都を盛り上げようということでもらっていただいた。 このビジョンの戦略を見ると、「心おどる水都・とくしま」は市民に非常にわかりやすかったので、今後の落とし込みはもっとわかりやすい形にしていただければ大変うれしく思う。
委員長	まだご意見はたくさんあると思うが、時間も延長してきたので、ここで終わらせていただきたい。
4 閉会	